

(全般モニター使用) ただいま、議長より登壇の許可をいただきましたので、公明党、松尾陽輔の一般質問をただいまよりいたさせていただきます。本日は傍聴に地元の区長さん達に来ていただき、大変にありがとうございます。

ことわざに、思い一念は岩をも通す、ということわざがあります。80歳でエベレスト8,848メートルに登山家の三浦雄一郎さんが登頂されたことを覚えていらっしゃるかと思います。また、きのうの新聞でしたが、リヤカーで世界1周というですね、吉田さんの記事がのっていました。一念、思い、夢を貫くことの大切さ。子どもたちに教えたくて、冒頭お話をさせていただいたところですけども。

では質問に入らせていただきます。今回は、環境整備をテーマに数多くの市民の皆さん方から、あるいは私からの提案を交えながら話をさせていただきたいと思います。

まず1点目、防災・減災に向けての環境づくり。具体的には、防災安全交付金の1兆6,000億の活用がどうなったか、お尋ねをしていきたいと思います。

2つ目には、佐賀県総合防災訓練が若木町で5月26日実施をされましたので、それを終えて、お尋ねをしていきたいと思います。

2つ目に教育環境について。具体的には、特色ある学校づくり、2つ目に障がい児保育から自立支援までについて、執行部の御見解をお尋ねをしていきたいと思います。

3つ目に、がん検診等に向けて。ピロリ菌採血による胃がん検診の提案をさせていただきます。

2つ目には、風疹ワクチンの公費助成についてお尋ねをさせていただきます。

4つ目に観光振興の環境づくりということで、九州オルレコースと眉山キャンプ場の整備について、お尋ねをしていきたい。

5つ目には、周辺部の環境づくりということで、みんなのバスの現状と課題について、所見をお尋ねしていきたいと思います。

最後に地域経済の浮揚に向けてということで、図書館効果と今後の企業誘致、オーダーメイド方式を取り入れたらどうですか、ということで提案を申し上げたいと思います。それでは冒頭に市長にお尋ねをさせていただきます。

我が公明党は政権与党に復帰させていただき約半年になります。その間、デフレ脱却、景気回復に総力を挙げて取り組んでいるところでございます。具体的に金融政策、財政政策、成長戦略という3つの矢といいますか、マスコミ等ではアベノミクスといわれていますけども、具体的にもう少しこう、かみ砕いて話をさせていただきますと、金融政策とは血液をよくすること。要は金回りをよくすることということですね。財政政策、臓器を強くすること。企業の生産性をいかに高めるか、という政策をいかにとるかということですね。

3つ目、成長戦略、筋肉を強くすること。要は競争力をつけていくということが、この3本の矢と、私なりに判断させていただいたところでございます。そういった中で、市政も同

様、金融政策、財政政策、成長戦略ということで、市長もありとあらゆる政策を打ち出しをされているかと思えますけども、今回は3つ目の成長戦略について、市長にどこの筋肉をどう強く今後されていく計画なのか。市民病院、図書館等、一段落というか方向性が見えた中で、今後の市長の成長戦略を、次の一手、次の一矢はということで、冒頭お尋ねをさせていただきます。御見解をよろしくお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

市民病院の民間移譲も図書館についても、先ほど吉川議員にお答えしたとおり、別に成長戦略をやろうと思ってやったわけじゃないんですよね。やっぱりいい仕事をすれば、そここう、成長がついてきたと、税収がついてきたということなんですね。やっぱり我々はいろんなことを学んでいます。市民病院の時でもいろんなことを学んで、図書館でも学んだ結果の1つとして、やはりよい空間を、公共空間といえども、公共施設の空間といえども、よい空間気持ちのよい空間、居心地のよい空間をつくれればみんながそれに集まってくれるんだというのがよくわかったんですね。昨日、図書館側から私のところに報告があって、今まで県外が多く、県外も多いんですけど、今結構、青森とかね北海道からお越しいただいているということ。今まで県外というと、例えば、福岡であったり長崎であったり、その佐賀の近県だったのが、だんだんそれが、関東、東北、北海道、あと沖縄ですよ。というところきて、もう1歩すると、多分もう海外になります。どことは言いませんけど、海外の放送局からも取材のオファーが私のところきてます。英語を勉強せんといかんねと思っております。その中で何を申し上げたいかということ、今度は庁舎をします。今度また、あした新聞にのると思いますけれども、文化会館と図書館を組み合わせた複合の施設をつくるのを明言しました。ですので……（「体育館」と呼ぶ者あり）体育館、あ、体育館と文化会館を足して、複合的な文化体育館ですか、をつくるっていうのをきょうもう明言しましたので。

これが多くの人が集まるようにすると、その周辺にビジネスがやっぱ生まれてくると思うんですよ。またその周辺に住みたい、っていうふうになると思いますので、実際今、新武雄病院でも図書館でも、まわりに住みたいという動きがもう始まっているんですね。あるいはこの関連のビジネスをやりたいと。特に今、武雄市はおかげさまで、山崎耕史さんとかが一生懸命やられていますけれども。行政と組みたいと、武雄市と組みたいということも来ていますので、そういう流れを加速させていく必要があるだろうというように思っています。最後に私からお願いなんですけど、絶対足を引っ張る人が出てくるんですよ、特にこの議会に。もうね、本当に批判はいいと思うんですけども、実際にプロセスの中で批判するのはいいんですけど、最初、図書館でもそう、病院でもそう、最初からぼこぼこですもんね。ですので、それはだめだっというふうに僕は思います。その結果、市民病院も図書館もこれだけの成果

をあげているというようになりますので、やっぱりね千円図書館とかっていうような言葉は厳に慎むということ。それとやっぱり、出る杭は打たれるのはしかたがない。ですが、やっぱりそう、応援しようという前向きな、我々執行部と議会と、ぜひ協力してほしいなというのもしています。

それと最後にしますけども、学校です。不登校。牟田議員の時もお答えしましたけれども、学校。不登校対策、ICT対策、それが基本的には過疎対策にもなりますので、それも合わせてやっていくということがあるかというふうに認識をしています。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

市長に次の一手、一矢はということでお尋ねさせていただきましたけれども、市長と私は弓の張りが違うもんですから、市長に一矢は——私は三矢をですね、皆さんに提案というか、思いを話をさせていただきますと、人口減の歯止め策ということで、まさにこれが企業誘致、企業支援戦略だと思うんですね。要は、若者がいかにこの武雄市に定着できる、という環境づくりをいかにしていくかと、ことがまずもって大事だということだと思っています。

2つ目には、人が集まる環境づくり、まちづくり、まさに観光戦略ですね。そこには、元氣と活気が、また新しいものが生まれるというふうな、形で捉えさせていただいております。この「もの」っていうのをひらがなで書かせていただきましたけれども、この「もの」には、雇用もあるし、新しい企業ができたりもしますから、そういった新しいものが生まれるというふうな形で捉えております。

また最後に3つ目は、自慢できるまちづくり、福祉と教育のまちづくり戦略ということで、要は自分のまち、自分の地域をいかに誇れるかということが、一番大事な部分だと思うんですね。そういった感じで、ぜひともですね、人口減の歯止め策、企業誘致、事業支援、あるいは環境戦略。ものが、新しいものが生まれる。また、地域を誇れるまちづくり。この3番目が、一番強調したい部分ですけれども。ぜひとも私の一矢もですね、きょうの戦略、一矢の中に取り入れていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私も同感です。3の自慢できるまちづくりと挙げられて、福祉と教育の。これも実際、あれなんですよね、財源と人がないとこれはできないんですよ。企業誘致、今の北方の工業団地も今、話を進めています。たぶん、うまくいきます。うまく行って、企業支援についても、これは実際それをどこかの企業とかに属するのではなく、自分で仕事をつくって、そして雇用を生むというように、支援策も今まとめています。ですので、若者だけでなく、主婦の

方でもいいと思うんですよ。それをもって仕事をするという意味ではね、付加価値を生むという意味では、そういう環境づくりをやって、そうすると、おのずと今武雄市がそうなんですよ。ぞんぞんこと言ったらだめですね。たくさんたくさん人がお越しになっていますので、そうなってくると、必然的にやっぱり子どもたちも、これだけ多くの人 cameたら、武雄はすごい、となっているんですよ。特に福岡の人と僕直接話しましたが、今まで武雄はどこにあるかわからなかったということをはっきり言われましたが、今は武雄はカッコいいと。それは、議員の皆さんのおかげなんです。それを、こう、きちんと発信をしていってね、大人が自信をもって発信するところは、おのずと子どもたちが自慢できる環境になるというふうに思っていますので、ぜひそういう思いを我々は出していく必要があるだろうと。基本的な認識は全く一緒です。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ぜひともよろしくお願いを申し上げながら、具体的に防災・安全交付金1兆6,000億の活用はということで、話を進めていきたいと思っております。昨年の9月、12月の一般質問です。公明党の防災・減災、ニューディール政策の安全・安心対策をということで話を、質問をさせていただきました。具体的には、通学路の緊急総点検の実施と早期整備をということで、話をさせていただきながら、若木町の皿宿区内の通学路を、非常に朝夕の通勤者がここが多かったものですから、ここになんとか対策をということで、早速、ここに白線を引いていただいて、非常に、白線効果といいますか、これ視覚効果ですね。非常にこう、狭く感じるわけですよ。そこでスピードが減速といった形で、徐々に通勤車両も減ったということで、地域付近の方からも喜んでいただいている状況なんですけれども。そういったなかで、通学路の緊急総点検の実施後の、市内の危険箇所と整備の進捗状況、あっちこっち、山内とか北方とか、いろんな地区が、学校側でもですね、調査をされたと思っておりますけれども、市内の危険箇所と、整備の進捗状況がどこまで進んでいるのかどうか。まずこれはそこら辺の、各区长さんからも話が出ておりますので、そういった形で、今どういうふうな段階で進捗が進んでいるのか、ちょっと確認をさせていただきます。御答弁をよろしくお願いたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾政策部長

**○松尾政策部長〔登壇〕**

この点につきましては、複数の課で対応いたしましたので、代表して答弁をさせていただきます。

昨年の京都府におきます事故を受けまして、武雄市におきましても、学校のほうで、緊急に通学路の点検をしていただきました。保護者の意見等も伺いながら、点検をされたという

ことであります。その結果、危険な箇所が72カ所ということで、あがってきております。その対応につきまして、関係部署であります市役所の総務課、建設課、学校教育課、それと武雄警察署のほうにも来ていただきまして、現地を確認し、その後の対策について協議をいたしたところでもあります。その結果、72カ所のうち、56カ所につきましては、通学路の立哨でありますとか、児童への危険の周知が必要ということから、学校の先生とかPTAとか地区の役員さんで毎朝、そういった指導をしていただいています。特に長期の休暇については危険度も大きいということで、特に力を入れていただいているというふうな状況であります。学校の対策以外につきましては、主にハード的な対策が必要という箇所でありまして、それが数カ所ございまして、市道関係につきましては、市の建設課。それから県道については、土木事務所をお願いする。それから交通規制等に関しましては、武雄警察署のほうで対応していただくというような、すみ分けをいたしまして、すでに対応済みとか、あるいは現在実施中とかそういった状況であります。市の建設課のほうで——モニターお願いします。(モニター使用) 市の建設課のほうで対応、あるいは今後対応ということにつきまして、何点か御紹介をしておきたいと思っております。

建設課で対応する部分については、5カ所でございます。そして左のほうですけども、武雄小学校の東側のちょっと上りの道はありますけども、外側線が薄くなっていたというふうなことで、引き直しをしてもらっています。歩道の部分が明確になったと。右側につきましても、そのもう少し北側ですけども、同様に外側線を引いてもらっています。それから次の左側のほうですけども、これは現在、建設が進められております新武雄病院付近から、旧国道につながる市道五反田山下線でありますけれども、ここは特に橘町の中学生が武雄中学校に通学するという今の通学路については、狭かったり危険だったりということがありまして、ここが完成すれば車道も歩道も広いですので、安全性が増すということでもあります。右側のほうにつきましては、山内町の、大野下黒髪線という道路でありますけれども、ここも道路改良が今実施中でありまして、一部まだ未実施の部分がありますけれども、道路が拡幅されて、安全性が増すことになるというようなことでもあります。それから、これの左側につきましては、梅林のほうから下ってきまして、保育所の横のところに出る部分でありますけれども、今現在、下り線が2車線、上りが1車線というふうになっております。下り線が左折と右折に分かれておりまして、非常に急いで——こう、されるということは非常に危険ということで、上下それぞれ、1線にしたいというようなことで計画しております。右側は樹木が茂っておりまして、剪定をしたいということでもあります。後は土木事務所なり警察につきましてはそれぞれ対応をされているというように聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

事故が起きてからは遅いわけですから、早急にですね、あるところはもう予算でですね、今度9月にやるよっていうことで聞いていますからね、よろしく願いをしながら、ちょっと気がかりなところが私がちょっとあったものですからお尋ねしていきたいと思います。これはきょう朝撮ってきた写真ですね、大渋滞ですよ。ここ若木の上宿の交差点。多いときにはですね200メートル、300メートル。またこういった大型ダンプが常に行き交うというような状況。これは若木の工業団地の入り口、ここ通学路ですね。非常にこう、見通しがきかない。あるいは附防地区、ここもですね、非常にこう、通学路ですけども、もう事故が多発しているというふうな状況なので、もう特に女山トンネルが開通すれば、というかですね、今から計画されてますけども、ますます交通量がふえていくというような状況の中で、これも昨年度でしたか、若木町国道498の歩道、それが信号機との整備設置を早急にとということで、行政は1人の命を守ることっていうことですね、話をさせていただいた経緯があります。

そういった中で武雄市署の警察管内の事故発生を見てみますと、人身事故が1日あたり、1.5件発生。また、物損事故、1日あたり2.8件起きているというような状況の中でですね、今回の通学路の緊急総点検実施等整備計画は、3省庁ですよ。文科省、国交省、そして初めて警察庁が加わって、早急に通学路の安全確保をせろという通達まできている状況の中で、なかなか警察庁の管轄の信号機やですね、横断歩道の要望はしてるけれども、なかなかこう現実に、新しい道路はできても、道路ができているところは、横断歩道もでき、信号機も設置されてるんですけども、既存の、さっき申し上げたですね、工業団地の入口、あるいは附防、あるいはもう町内あっちこっちでもあると思うんですけども、その辺の警察庁の管轄の信号機や横断歩道ですね、設置がなかなかこう、見受けられんと。そういった状況を執行部としてはどういうふうな状況で掴んでおられるのかどうか。ちょっとお尋ねをまずさせていただきますたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

今回の件につきましても、先ほど言いました、学校の安全対策という面におきましても、武雄警察署にお願いをすべき事項ということで5件ほどありました。このうち横断歩道の設置でありますとか、そういう交通規制に関する部分につきましては、武雄警察署でも調査なりをされますけども、最終的判断というのは公安委員会というふうなことで、現在武雄警察署のほうから公安委員会のほうに、なんて言いますか、申請をしているというふうな状況というふうに聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

それは私も公安委員会が最終に判断ということは当然分かっていてですね、話をさせていただいたんですけども、その後、どうなっている、なぜできないのかという、その辺の原因というか、その辺は掴んでおられるのかどうか。ちょっと、もう一度答弁をよろしく――。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

こちらのほうも対応が非常にまずいとは思いますが。今回の件とか、地区からの要望がありましたときは、武雄警察のほうに申請をすると、連絡するという形で、要求しっぱなしというところがあります。その後どういう状況になっているのか、どうしてできないのか、いつできるのか、ということについては、今後はきちんとこちらも把握をして、要望される地区のほうにもおろしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

午前中の吉川議員のときにもですね、地域の要望がなかなか、3年、5年たっても実現しないというふうな状況の中で、こういうことがですね特に、今回の通学路に関しては3省庁で、素早く対応ということではしておりますから、ぜひともですね、我々も当然、バックアップをしながら、早急な設置をですね、していきたいと思っておりますので、ぜひとも教育長、そういうような形で、若干、通学路の子ども達の安心・安全ということですので、ぜひとも、その辺は早急に対応していただくことを申し上げて、具体的な防災交付金1兆6,000億の使い道についてお尋ねをさせていただきたいと思っております。

1兆6,000億の活用ポイント。要は、地域が抱える政策課題を自ら抽出し、政治計画を明確化しなければならないと。2つめのポイント。政策課題の解決のためのトータル支援であること。また、3つめは、自由度を高め、使い勝手を向上することが、今回の防災・安全交付金の活用ポイントになっているわけですけども。ここで政策課題を自ら抽出し、整備計画を明確化ということに注目していくとですね、なぜ自ら抽出して整備計画を明確化しなければならないかということは、従来の補助金は、道路・下水道・まちづくり等ですね。個別の補助金でしたものが、今回、個別の補助金が廃止になったわけですよ。そういった中で、個別補助金の廃止が、社会資本整備総合交付金という形で交付金がおちてきますものですから、そういった中で本市の具体的な政策課題は、どういうところが政策課題として掲げているのか。それに伴う整備計画が具体的にどのような形で整備をされていく計画なのかを、ちょっと具体的にお示しができれば、御答弁をよろしくお願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

平成 22 年度の社会資本整備総合交付金制度というものの創設に合わせまして、道路橋梁などの各分野において、整備計画を策定しているところでございますが、平成 24 年度補正予算では、生活空間の安全確保の取り組みを集中的に行うために、特に防災・安全交付金制度ということが創設をされました。この活用にあたりましては、整備計画の提示ということが条件付けられておりますが、この計画につきましては、先ほど申しました、社会資本整備総合交付金の活用に合わせて整備計画を立てておりますが、これをもってですね、可能であるというふうにされておりますので、これを武雄市としましては適用しております。ちなみに、平成 25 年度の該当する市の事業としましては、道路の防災事業 4,000 万円。舗装の補修事業 8,910 万円。道路ストックの総点検事業 5,100 万円。合計総事業費 1 億 8,100 万円を予定しているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういった状況の中で、ぜひとも早めにですね、前倒ししてでもですね、対策を講じていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたしながら、昨年 9 月、12 月の一般質問の中で、これはまた、防災・減災ニューディールという状況の中で、これは山口議員もですね、橋の長寿命化計画の策定と、実施計画を早急にと、ということで私も話をさせていただきました。

市内の橋梁を約 50 カ所ほど見てまいりました。要はもう、橋の欄干の老朽化ですよ。もうセメントで、こういった辺りがもう非常にもうもろくなっている。あるいは橋桁も、非常にもろくなっているような状況。そういった中で、16 年後にはその耐用年数の 50 年以上が、もう半分は 50 年以上を経過するというので、計画方針を急いで策定を、ということで申し上げながら着実に今、着工していただいている中で、橋の調査が 139 橋、15 メートル以上という話をですね、昨日でしたか、答弁をいただきながら。そういう 15 メートル以上とかですね、大規模な部分はいいでしょうけども、山間部のこういう生活道路ですよ、要は。ここに橋の欄干を設置をすればですね、崩落防止になるというような状況。要するにパイプ型の欄干でいいわけですよ。あるいは、山間部ののり面にこうセメントを吹き付けてある。セメントもこう、ひび割れて、こういうふうな状況が、周辺部で生じている、というような状況が、あちこちで散見をされます。また、山間部の生活道路にも側面が、崩壊状況があちこちで見受けられると、というような状況の中で、ぜひとも、周辺部の小規模災害危険箇所の点検と整備計画。武雄版、地方版の、防災・減災ニューディール政策計画をぜひともですね、策定し



ていただきながら、地域にお示ししていただくような対策をぜひとも講じていただきたいと思います  
と思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

確かに昨日は15メートル以上、あるいは15メートル以下でも、重要な橋については点検  
をしましたということで申し上げましたけれども、他にも小さな橋でも、緊急を要するところ  
は、その都度点検をやりながらですね、地域に密着したところの維持補修には、計画的に  
対応していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともですね、周辺部の対策もお願いをさせていただきながら、5月26日、佐賀県総  
合防災訓練が若木町で実施をされました。これは被災地からですね、避難所へ家族で移動し  
ていただいているところですね。あるいは、避難所の若木小学校の体育館で、避難所運営訓  
練が各部落に分かれて実施されました。ちょっとこれはですね、段ボールで――。これ段ボ  
ールですね。段ボールで簡易ベッドづくりがですね、区民の皆さんが力を合わせてしてい  
ただいているところです。またこれは、先ほどのFMのですね、コミュニティFMの話があり  
ましたけれども、これは、簡易式のFM放送システムで、臨時災害の情報発信と。非常にこ  
う、このような身近な情報を聞くと住民が安心感があるわけですね。ぜひともこの分に関し  
てはですね、FMコミュニティも合わせてですね、取り組んでいただきたいと思いますと思う中で、市  
長激励ということで、区民の皆さんと、やっぱり現場の声を直接聞いていただくというのが、  
非常に大事な部分ですよ。現場第一主義、生の声を聞いて、市政に反映するということがい  
かに大事か、ということが市長から声をかけていただいて、区民の皆さんも喜んでいただ  
いて、またいろんな、こういうところは、ということで耳にされたと思います。今回、若木町  
で実施をされた中で、訓練後の課題が、どのようなことが課題として聞かれたのかどうか。  
また、毎年各町で防災訓練を実施をされておりますので、そういったものも含めて、訓練後  
の課題。避難状況、あるいは連絡体制、確認、問題がなかったのか、その辺の確認をさせ  
ていただきます。御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

訓練の後に、アンケートをとったんですね。まず、防災行政無線の個別の受信機が鳴らな  
かった、という話であったりとか、もっと避難について留意すべき、訓練の事前説明が不足

している。これはどうかなと思います。あと訓練の項目が多くてわかりにくかった、という意見がありました。以前の訓練の反省点として、高齢者等の要援護者への支援不足が挙げられる中で、やっぱり出るだろうな、と思うのは出てくると。しかし、その一方で、防災訓練の必要性として、85.5%の皆さん方が、また訓練に参加したいという回答だったので、これは非常に高い数値、高い意識の表れだと思いました。やっぱりこれは繰り返さないとだめなんです。頭で考える前に体が動く、というふうにしないとだめなんだなというのがありますので、繰り返しいろんなところでやる必要があると同時に、日々の生活で、例えば、きのうか、おとといだったか、3・11から2年3カ月経って、そういう節目、節目のときに、やっぱり自分だったらこうするとか、頭の中で考えておかないと体は動かないですよ。ですので、そういったことが日々の生活の中でも僕は重要だと思いますので、いずれにしても今回得られた教訓については、次の訓練に生かしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな課題が見られたかと思うんですけども、それは訓練の繰り返しも大事だと思いますが、訓練だけでは十分じゃないと私は思っています。それは何かというのですね、課題・問題点を地域にフィードバックしてこそ、訓練が終わるといふか、やっぱり、自己完結型ですよ、最終的には。訓練後に地域で課題解決を、ということで話をさせていただきますと、公助の前に、市長、何が大事だと思いますか。元兵庫県知事、武雄出身者の、貝原さん。阪神・淡路大震災で、きちんと指揮を執られた貝原さんが、公助の前に自助、共助が大事ですよ、と。自分をいかに守っていくか、また地域で、その人たちをいかに支えていくか、というのがまずもって、第一条件ですよ。そういった中で、いろんな課題が収集され、地域に戻して地域の中で解決されるような取り組みがなされたかな、という疑問を投げかけさせていただきたいと思うんですけども、過去に取り組みをされたことありますか。一言で結構です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ありません。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、地域に持ち帰らせて、担当側にも入っていただいて、どこにどういうことが問題があったのかどうか、具体的にそこで解決策を地域の皆さんと一緒に考えて、自己完結型

にしてこそ、最終的な訓練が終了ということで思っていますので、ぜひとも、また次回このような訓練があるかと思えますので、ぜひとも地域にフィードバックをしていただきながら、課題解決に。公助の前に、自助・共助が大事ですよ、ということで、市長もうなずかれたと思いますから。ぜひともそのような形で、そのような場を、提供を、ぜひともお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

これも先ほどの交通施設と一緒にすけれども、フィードバックが非常に不十分と、いうふうに反省をしています。さっそく区長会等と相談しながらそういう場をつくっていただいて、こちらから出向いて、そういう協議をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひよろしく願いをしておきたいと思います。一番大事なところですから。また、今回の体育館での訓練の中で、心肺蘇生の応急処置ということで、AEDの訓練、説明も武雄市の女性消防団員の方から、説明がありました。そこで、AEDの設置の移設について、御提案をしたいと思います。これは若木町の公民館です。ここにAEDがありますよ、という表示がされています、ここですね。これは若木小学校の体育館の玄関口にAEDの設置があります。中に入ってAEDがあるわけです。ただ、夜間あるいは休日の時には、閉まっているわけです。どうして取り出せばいいのか、割って入らないかんのですよ、玄関のドアを。1センチメートルもある。ハンマーか何か持って行かないと取り出せない。緊急を要するというような状況で、果たして、せっかくあるのに、有意義に活用、例えば若木でいえば体育館に1基、それから公民館の1基あります。体育館は子どもたちが、例えば運動会とか、町民の方の運動会とか、いろんな体育の行事があるわけですよ。公民館に置いておく必要もありますけども、そういった感じで、休日とか、そういった状況には、閉まって使えないと。どこの公民館でもあると思います。武内公民館もAEDが公民館に設置されているかと思えます。要はそういうようなコンビニ関係の業者の方が設置してもらえば一番いいわけですが、今すぐ設置というのは非常に難しい状況の中で、コンビニの方に、経営者に、こういうふうな形でお願いしたら設置可能ですか、と事前にお伺いしたところ、もしそのような形で相談があればいいですよ、とありがたい前向きな言葉をいただいたので、ぜひとももう少しこの辺のですね、せっかくあるもんですから、24時間365日営業しているコンビニに公民館のAEDの設置を移設したらどうかということで御提案しますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

とてもよい案だと思います。確かに都内に出張したときに、コンビニに行く機会があったときに、何軒かAEDが設置されているんですね。これはおそらくコンビニが多くのみなさんたちがお越しになり、非常にコンビニエンスストアなので利便性が高いということですので、私たちのほうから市内の全コンビニに働きかけたいと思います。ただそれは、店舗で判断できる場合と1回本部にあげないといけない場合があるので、時間や個々の店舗で対応の差があると思いますが、聞くところによると若木のファミリーマートは要請があれば受けたいとおっしゃってくださっているようですので、この流れを広げていきたいと思います。置いてくださるところは、我々はしっかり広報します。広報したいと思いますので、ぜひ今日はコンビニで働いておられる方、経営者の方々が見られればね、まだ個別に働きかけていきたいと思いますので、ぜひ置かせていただければありがたいです。貴重な御意見ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

これも一つ訓練の中で、AEDは活用利便性のある場所で設置を、と思ったので提案をさせていただきました。また、火災の初期消火についても、6月の一般質問で、消火栓のホースの格納庫の設置をということで、話をさせていただきました。消火栓がどこにあるかわからないと。ここにあるわけですね、消火栓が。ここに格納庫がついていれば、すぐ誰でも使うことができるんですけども、今の新設の消火栓には格納庫も設置をされているようですが、昔の消火栓のところには、まだついていない状況の中で、今どういうかたちで、計画されているのかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

消火栓ボックスについては、今設置している分は、全て設置しておりますけども、以前の分については、ついてないところもあります。この整備につきましては、各地区で自主的に整備をさせていただいているところもありますし、地域によって、整備のやり方が違うというのもあるので、一昨年ですかね、新しくつくりました消防交付金、この辺の活用も含めて、検討させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

一遍にする必要はないのですから、まずは計画を立てて、この地区には1基という形で、年度策定をして、よろしくお願いを申し上げながら。ちょっと火災の話があったので、話をしますが、初期消火について、地域防災の要は、地域の消火団に担っていただいていることは言うまでもありません。ただそういった中で、火災発生時の、現場の場所の連絡の詳細をということで、実際に私も体験しました、今年の2月でしたか。「若木公民館付近で火災」ということで、テロップに流れました。消防車も出動ですよ。しかし、なかなか火元が見つからないわけですね。火も煙もあがっていない。しかし、消防署に通報されているわけですよ。原因を突き止めますと、風呂の空焚きということで、びっくりされて、それを放置すれば、火災ですよ。ただ、どこから出たのか、火元がないものですから、わからない。そういった状況の中で、区長さんに聞いても、どこかわからない。消防団もどこでも地域を、区を飛び越えてまわっとるわけですよ。テロップに流れて、サイレングルグルですから。せめて、テロップに場所まで、個人名まで出す必要はないかと思えますけども、その責任者の区長さんまで、なんとかいち早く連絡がいくような体制をですね、もしよければ、とっていただくような形でですね、していただければ、初期消火に努められるというような、現にこういう形で2月に私がその現場におったものですから、ぜひともそのような形で区長さんに聞いてもわからないという状況の中で、ぜひとも、その辺の連絡体制が整っていればよいのでしょうか。その辺の体制はどうなっているか、お尋ねをさせていただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

火災時におきます連絡体制ですが、私どもも消防署からのメールによって、連絡を受けたりしております。そこを介して、区長さんに確実に連絡すると、人的に介してやるというのは、できない場合もあるかと思えますので、自動的に区長さんに届くという対策といたしましては、私どもが登録しております、消防本部の火災メール、これに登録していただくのが、いちばん確実かと思えます。携帯をお持ちでないという方もいらっしゃるかも知れませんが、確実なのはそこかなと。あともう一つは、「あんあん」ということで防災情報とかいろいろな情報が来ますけども、そういったものに加わっていただくと。それと、区長さん側から問い合わせる方法としまして、消防テレドームという、アナウンスが流れるやり方ですけども、がございます。電話番号で言いますと、「018-099-9339」というものですけれども、電話していただければ、アナウンスが流れると。こういったことにつきましては、次の代表区長会で御説明をし、すべての区長さんに通じるような形で、御説明をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともその辺の徹底をですね、よろしくお願ひしたいと。現に私も身近にそういうような形でおったもんですから、なおさら対応の連絡網の整備をですね、よろしくお願ひを申し上げておきたいと思ひます。そういった中でですね、健常者の方々はいいんですよ。そういうような訓練、ただ、災害時の要援護者の登録が平成20年度から開始をされたかと思うとですよ。例えば、寝たきり、あるいは難病を抱えてらっしゃる方、その方たちの避難訓練。実際、その方たちをですね、実際どうやって避難所につれていくのかどうか、実際そういうようなことを体験させながらすべきというような形ですね。佐賀県の難病支援ネットワークの方々がですね、実際避難訓練というような形で実施を嬉野でされております。平成23年度、4回目ということで、県、市の行政、防災、あるいは地域婦人会、いろんな形の協力元、また地域の中学生、高校生もですね、一緒になって、こういうような要援護者の避難訓練ということで、実施をされているようでございます。そういった中で、もしよければ武雄市もですね、こういうような形で県の取り組みもあるものですから、ぜひ取り組みをお願ひをさせていただきながら。これは答弁結構ですから、通常の訓練と、要援護者の訓練の実施をですね、ぜひともお願ひしたいということで、私のほうから御提案させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひを申し上げながら、次の質問に移らせていただきます。

これ若木小学校ですよ。すばらしい自然環境の中でですね、子どもたちが学んでおります。ただ、生徒数が最近もう激減。100名いた生徒がもういま88名。来年は70名。再来年は60名というような形で、1クラス10名前後ですよ。非常に、寂しい思いの中で、特色ある学校づくりをということで、市長から、特色ある学校づくり、3つありますよと。例えば不登校の生徒達が自ら来たがるような、行きたいような学校づくり。あるいは、ICTに富んだ学校づくり、学校の先生が主体となった学校づくりが、最終的には移住につながるというふうな学校づくりをですね、考えていきたいということで話をされておりましたけども。ポイントは、学校の先生が主体となった学校づくり、ということで話をさせていただくと、教員の役割、教育とは人を教え、育てることが教育ということですね。ゆえに教育の原点は、教師である。その人格こそが教育という価値創造の根源である。ゆえに、教師こそ先生こそ最大の教育環境となるということで、大学の創立者の言葉から引用させていただいたんですけども。まさに、いろんなハードの部分があるかと思ひます。校区の見直しやクラブ活動の見直しと、市長から話もありました。あるいは、ICT教育ということもいいでしょうけども、教員、教師こそ最大の教育環境ということに対して、教育長の御見解をお尋ねをまずはさせていただきますたいと。いかがでしょうか。

## ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

## ○浦郷教育長〔登壇〕

全くそのとおりだと思います。人それぞれに、忘れない先生が心の中にいらっしゃるんじゃないでしょうか。小さいときだったら、先生の言い方まで真似すると。親の言うことは聞かなくても、先生の言うのは聞くと。あるいは思春期になりましても、きつい思いしているときに、寄り添っていただいた先生というのは、一生忘れないわけであります。それに加えて、そういう人柄と、豊かな見識を持って、学力もつけていただくと。そういう先生が最高ではないかなと。まさに最大の教育環境だろうというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ぜひともよろしくお願いをいたします。何回も繰り返すようですけども、教師こそ、先生こそ最大の教育環境ということを根底に置きながらですね、特色ある学校づくりを、ぜひともですね、教育長が率先していただきながら、よりよい学校づくりに取り組んでいただければと思います。そういった中で、子どもたちに、やっぱり特色ある学校づくりというのは、子どもたちに、また家族に、またさらには地域に広がりが出てくるといいですか、学校が大きな地域としてのコミュニティ、役割、役目を担っていただいているのが学校だと思います。そういった中でですね、学校づくりも地域とのかかわりが欠かせないということで、市長もきのう、西日本新聞の若木小学校の記事を紹介していただきながら話をされましたけれども、ここで若木のJAの松尾さつきさん。若木の方ですけども、子ども達と一緒にですね豆腐づくりをしましたと。今年は大豆の種まきから参加して、みんな味噌づくりや豆腐づくりを手伝おうと考えていますと。命を頂くことに関心を持ってもらい、食の安全、関心を次世代に伝えていきたいという思いがあってやっていますと。登下校時に必ず挨拶してくれる子どもたちは、孫のようですと。これからも一緒に郷土料理をつくる活動、幅広い活動を広げていきたい、というふうな声を乗せていただいております。まさに、地域と一体となった学校づくりが、まさにこれじゃないかと、思っている中でですね、もう一度市長に最後にお尋ねですけれども、地域とのかかわりを持ちながら、極端に周辺部の生徒数が減少していく中でですね、特色、中・長期的な見通しの中で学校づくり構想といいますか、特色ある学校づくり、新しい、特色ある魅力ある学校づくりの考え方に対して、今一度、市長の御見解をお尋ねさせていただきます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私、やっぱり最後の切り札は、小学校と中学校だと思うんです。今、いろんな親御さん達と話をしていると、どうしても、優先順位が子どもの教育って、皆さんおっしゃるんですよね。特に、都会の親御さんに、その傾向が非常に強い。そういった中で、これは以前お答え

していますけれども、やはり不登校、ICT。それをきちんとやることによって、それが親御さんというか、家族そのものがね、引っ越してくると。場合によっては仕事の関係で、お父さんは働いて、母子家庭となって移り住んでくる、というようなのを、全国、実は本腰を入れてやっているところはないんですよ。ですので、それを、ぜひ我々はやっていきたいと思ってるんです。

その一方で、これはひとりよがりであってはいけないんですね、行政のひとりよがりであってはいけませんので、これは地域の皆さんが、やっぱりこういう特色のある学校にしてほしいと、したいと、いうことがないとね、それはやっぱりうまくいかないと思いますよ。ですので、そういう意味からいうと、特色ある学校づくりというのは、単に子ども達だけの話ではなくて、これは地域を再生させる、大きな切り札になっていくと思っています。もしですよ、若木小学校が、そういう小学校になるとするじゃないですか。そしたら太陽光村は、全国から移り住んできた人たちの、多分、お住まいのエリアになるんですよ。ですが、それもやっぱり地域なんですよ。よそから——若木はそんなことないと思いますけど、あるところはね、あまりよそから来られたら困るって。「いっぱい来て、来て」って言ってるくせにね。武雄市じゃないですよ。いっぱい来てって言っているくせに、いざよそ者が来たら、はんこ打たなきゃいけないとかね、というのがある。そうすると、来た人達が、「なんじゃこら」と思うわけですよ。だから、そういうふうにならないようにしていく必要もあるだろうというふうに思っています。基本的には、学校の先生が主体となって、そういう学校になるように、我々は積極的に応援をしていこうというふうに思っております。これは2、3年、5年、10年かかるような話ですけども、ぜひやってまいりたいと、このように思っています。

**○議長（松原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕**

ぜひともですね地域を巻き込んで、今後、学校づくりをテーマにですね考えていきたいと思っております。

それと、先ほど答弁で言われました、主体はどうしても先生、ということですね。市政もトップセールスですよ。そういった中でですね、学校現場は校長がトップなわけですから。校長の裁量というか、思いが、特色ある学校づくりに反映してくると思いますけども。学校長の在任期間は何年くらいですか。2年くらいですか。確認をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

**○議長（松原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

個々の校長先生によって、1年から4年とか5年ということありますけれども、平均しま



すと、全体的に2年から3年の間。2、3か4、そのあたりが平均だったと思います。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕

市教の管轄じゃないもんですから、県教の管轄の範囲かと思えますけども、2年から3年ということで、短い人だとどうしても2年で転勤されている方も中にはいらっしゃいます。そういった方で、1年目はやっぱり地域になじんでいただくのが――。子どもたちとなじんでいただくというか、触れ合う期間が1年目。2年目に特色ある、魅力ある学校づくり、思い、構想が2年目。3年目に校長先生が思いを実現というふうな形がベターといいですか、そこには3年、4年という期間を校長としては、赴任して在任していただいてこそ特色ある学校づくり、また地域とのいろんな触れ合い行事に参加していただきながら、よりよい姿ができるかと思えます。ぜひとも3年ほどの、最低3年という赴任期間をぜひとも校長に持っていたいただきながら、まちづくり、地域づくり、まちおこしという形でぜひとも申し上げていきたいと思うのですが、その辺いかがでしょうか。

○議長（松原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

浦郷教育長さんみたいに、今ですよ、よい校長先生だったら、5年も10年も20年もいてほしいと思えますけども、そうじゃない人もいますよ。ですので、そういうことからすると、一概に、一律に3年というのはどうかなと。地域と校長は相性の問題もあるんですよ。あるところでは力を発揮していても、あるところでは発揮し得ない。浦郷教育長のようなスーパースターってなかなかいないんですよ。ね、浦郷教育長。（発言する者あり）物すごいですよ、本当。うちの宝ですよ。ですので、そういうことからすると、より相性というか、それも地域が校長先生をバックアップしていくというような動きがあればいいな、とっています。

私は名門朝日小学校の出身で優秀な成績の人と一緒に卒業しましたが、そこが実は校長先生と地域が物すごく近かったんですね。子どものときからそれは思ってたんですよ。武雄中学校もそうです。石丸校長先生、石丸三郎校長先生ですよ、北方町の教育長をされた石丸校長先生と生徒、地域、物すごい近かったんですよ。だから、それはやっぱり地域がそういうふうに校長先生を育てるといったらそれは非常に語弊があるかもしれませんが、一緒にあって取り組んでいこうということがあれば、それは力以上の力を発揮できると思っています。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕**

おっしゃるとおりだと思うんですけども。どこもすばらしい校長先生ですよ。特に私の場合は、武雄北中校区なもんですから、特に、転任された宮地校長あたりは、夢プロジェクトをたちあげられて、非常に、子どもたちから、地域から慕われてですね、独特の個性を持って、すばらしい先生やったですよ。それとかこの間まで武雄中学校に勤務されておりました大庭先生は、今度新しい若者のサポートの事業についてらっしゃるといふことで、非常に、今後そういう方たちを交えながら学校づくりをしていきたいと思っております。

それでは続いて、障がい児保育と自立支援について、お尋ねをしていきたいと思っておりますけど、武雄保育所の公募状況と今後の計画といふことで、これは答弁もいただいております。今4つの公募があって、7月下旬までには決定をしていきたいといふような流れだそうであります。そういった形でいろんな公立の保育所のあり方も大いに取り入れていただくような形の中で、民間に移譲を、と思っておりますので、よろしくお願い致します。そういった中で、武雄保育所の中で障がい児教室といふますか、たんぼぼ教室が併設されております。私の娘も、5番目が障がいがあったので、3年ほどたんぼぼ教室に通わせておりました。非常にリハビリとか、いろんな形で週に1回やったんですけど、若木保育園に行きながら、週に1回たんぼぼ教室に通っていた時期がございました。非常に、障がい者にとってはありがたい教室だったものですから、またいろんな悩み事、相談事も聞いていただいておりますね、非常にすばらしい取り組みだと思うんですけど、この民間委託に伴い、併設された、たんぼぼ教室は今後どうなっていくのかどうか確認をさせていただきたいと思っております。

**○議長（松原豊喜君）**

山田くらし部長

**○山田くらし部長〔登壇〕**

たんぼぼ教室につきましては、児童の発達支援事業といふことで、現在の武雄保育所の中で取り組んでいるところでございます。今話が出ました武雄保育所の民間移譲とは別に考えておまして、先ほど言いました児童発達支援事業につきましては、市内の社会福祉法人等でも取り組みがなされているところでございます。そのようなことを考えますと、現在たんぼぼ教室のほうでは、いろんな専門家の先生、例えば理学療法士とか言語聴覚士、それから作業療法士とか、そういう専門家の方につきましては、その都度、派遣をいただいているところでございます。そういうようなことを考えますと、専門家がいらっしゃるところにですね、充実した体制でできるというところでございますので、そういう社会福祉法人のほうに任せたいほうが望ましいのではないかな、というふうに考えているところでございます。

**○議長（松原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕**

その辺は十分に検討していただきながら、民でできることは民で、しかし公でできるところは、支援していくところは支援をしながら民に任せるといような体制をぜひとも取っていただきたいと思います。先進地の明石市の障がい児保育のところに研修視察に行かせていただきました。そこも今後は将来的には民間に移譲という話も出ておりました。ただ、いずれにしても民間でできない部分が多々あると、現実的に。そういう部分に関しては手厚く公的な支援の実施を、というように状況もされておりますから、その辺は十分にしていただきながら――。

それでは市内の各保育所に障がい児の受け入れが、どのような形で実際どれくらいされていらっしゃるのかどうか、また受け入れながらどういうふうな課題があるのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

**○議長（松原豊喜君）**

蒲原こども部長

**○蒲原こども部長〔登壇〕**

先ほどくらし部長がお答えしました、たんぼぼ教室といいますのは通園の訓練事業ですが、市内の全保育園で障がい児保育、特別保育は取り組みをしていただいております。現在、障がいのある子どもたち8人の受け入れをしていただいております。現場で頑張っている状況です。

**○議長（松原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕**

実際受け入れもしていただいておりますが、実際いろんな形で課題も現場としてあるかと思っておりますから、十分な配慮をしていただきながら受け入れができるような態勢づくりを心がけていただきたいと思います。そういった中で、障がい児保育からちょっと飛びますけども、障がい者の優先調達推進法が今年の4月から施行になりました。どういうことかということ、障がい者の施設等からの受注機会の増大を図ることを求めた推進法であります。

また就労機会の増加と自立を促進することを目的にした推進法です。第1条には「障害者就労施設等の受注の機会を確保するために必要な事項等を定めることにより、障害者就労施設が供給する物品等に対する需用の増進等を図り、障害者就労施設で就労する障害者、在宅就業障害者等への自立の促進に資する」と定めが出ております。そういった中ですね、この通達等を踏まえながら現在、障がい者就労施設等の発注の機会を確保ということで、障がい者施設への市としての発注状況はどのような状況なのか、確認をさせていただきたいと思います。

**○議長（松原豊喜君）**

山田くらし部長

**○山田くらし部長〔登壇〕**

障がい者の就労継続支援事業所等への発注ということでございますけれども、現在、市のほうからは公園の植栽とか維持管理とか、高齢者等に関する配食サービス、このようなものを発注しているところでございます。

**○議長（松原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕**

発注は私も確認をさせていただきました。ただ今後、もう少し発注をふやすような調達目標、発注目標を定める努力義務として求められているかと思いますが、どのような形で――。それは施設の受け入れ体制もあるかと思うのですが、今後の発注計画はどのような形で計画を今後される、今されているのか、また、今後どのような形で計画をされるのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思いますので御答弁をよろしくお願い致します。

**○議長（松原豊喜君）**

山田くらし部長

**○山田くらし部長〔登壇〕**

障がい者の優先調達推進法に伴います発注等につきましてですが、法に基づきまして、障がい者の就労継続支援事業所等から提供可能な物品の調査、何が提供できるか、そういうふうな調査をいたしますとともに、市内の関係部署、どういうふうなものを発注されているか、納入していただきたいか、あと、いろんな役務、先ほど言いました、管理とかですね。そういうものも含めまして情報を収集して、これらの情報をもとにして、障がい者の継続支援事業所等への優先調達を充実していきたいというふうに考えております。

**○議長（松原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕**

私もこの資料は取り寄せております。平成25年4月から障がい者優先調達推進法がスタートしますと、具体的には、いろいろルールが書いてあります。ぜひとも積極的に、この分に関しては取り組みをよろしくお願いを申し上げながら、続いて、がん検診等の補助に向けてお話をさせていただきます。ピロリ菌検査による胃がん検診をどうですか、という問いかけですが、ピロリ菌、50歳以上の8割は保有している、ピロリ菌ですよ。ピロリ菌の度合いによって、胃炎、胃潰瘍、胃がんの発生というか、引き起こす原因がピロリ菌といわれております。そういった中でピロリ菌の除菌の保険の適用が、我が公明党の積極的な推進によって、保険適用が拡大になりました。これは胃がん予防の前進です。そういった中で、胃がん検診の状況について私も手元にいただいておりますが、非常に受診率が低い。そういった状況の中で、受けやすいがん検診ということで、今、胃がん検診は、バリウムを飲んでX線で

撮らないといけない。しかし、このピロリ菌検査で胃がんのリスクがわかるわけです。

私も前立腺がんを受けたことがあります、数秒でわかるとですよ、採血で。あと通知で。通知は後から来ますけども。バリウムを飲んでというのが抵抗感が非常にあるということで、ぜひともこういうような形でピロリ菌の採血による胃がん検診をぜひ取り組んでいただければ、今後、がん検診の普及に一翼を担うのではないかと。またピロリ菌の検査は胃がんのリスク判定ですから、リスクはA、B、C、Dとあって、Dの方は再度要検査という状況ですけども、採血だけで胃がんのリスクがわかる状況ですから、もしよければピロリ菌の補助を別立てで検討を——。嬉野市辺りはピロリ菌の補助金も出ているようですが。今回私からは、採血で胃がんリスクができるピロリ菌検査の導入をぜひ——。今、各地で、胃がん検診の実施が公民館でされているかと思いますが、今の胃がん検診をこのピロリ菌検査に変更できないかどうか、その辺を簡単に結構ですから御答弁をいただければと思います。

○議長（松原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

胃がんの検診の受診率が非常に低いということでございますけれども、その部分でピロリ菌検査の導入ということでございます。胃がんの検診の代わりに、ということでは実施はできません。しかし先ほど言われましたように、リスク検査というふうな形ですので、そういうリスクがある方でまたピロリ菌がそこでわかった場合につきましては、再度胃カメラの検査をしていただくというところで、最終的には早期発見、早期治療、医療費の削減にもつながるというふうに思いますので、特定健診時に胃がん検査とは別にして、希望される方につきましては実施できるようにしていきたいと思っております。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕

ありがたい答弁、ありがとうございます。採血で胃がんのリスクはわかりますから。要は50歳以上は8割の方がピロリ菌を保有していると。胃炎あるいは胃潰瘍、非常に日本人には多いと言われておりますから、ぜひともそれを普及していただいでいて、胃がんの検診の向上に力を注いでいただければと思いますので、よろしく申し上げます。

つづいて、風疹ワクチンの公費助成についてということで——。妊娠初期感染は障がい児が生まれる、この——非常に可能性が高いと言われております。ただ、そのワクチン接種は1回に7,000円から1万円と高額になっております。これは佐賀県が2分の1を補助しますよということで、今回の6月の定例議会の場で予算で計上されているようでございます。武雄市も6月の補正予算にも計上されております。

そういった中で、議案審議のときにこのことは議論させていただくとして、こういうふう

なことは自治体に格差があってはいけないわけですよ。要は、国策として一律にするという形で、公明党のネットワークを通じながら、国にも、厚労省にも、この分に関しては自治体格差が、子どもたちに不平等を与えてはいけないという形で申し上げていきたいと思っております。まさに自治体格差は、こういうところにあってはいけないと思っております。風疹ワクチンの公費助成については、積極的に負担がかからないようにもっていきたくて思っております。

それでは次に、オルレコース、観光振興の環境づくりについて。オルレコースについて話をさせていただきますと、これは山口議員も言われました「家に帰る道、細い道」というのがオルレですね。佐賀県武雄のオルレは、8コースの中で第2位ということで佐賀新聞にも大きく報道されていまして。私も、我が公明党の公明新聞に九州オルレの観光振興ということで5月15日に情報を発信させていただきました。全国発信ですよ。常にあっちこっちから、全国から一度はとというふうに、非常に——市長の発信力に負けるわけにはいかんもんですから、私自信もこういう形で大いに全国に発信をさせていただいて、非常に反響がよいです。私も、実際にあちこち駅をスタートにオルレコースを回らせていただきました。「カンセ」という馬の頭の方に向かう進路ですね。これは、リボン。これは、塚崎。武雄文化会館の裏にあります。これは、塚崎の大楠。ここは雷が落ちて空洞になっている。非常に重々しい、すばらしい大楠です。ただ、こういったなかで、一層の整備、観光はおもてなし、気配りが大事ということで、山口議員も言われたとおりですよ。整備に関しては、今以上にですね、整備をきめ細やかな気配りの整備をということで、看板、フェンスを——フェンス等あたりも、公共施設であればすぐ手がけられるんですけども、一部個人所有の部分も。いろんな普通の道に行くわけですから、あるもんですから。それを手がけながら個人所有の部分でもお手伝いできる部分は、ある程度行政と一緒にあって、その辺も整備計画の気配りをぜひともお願いしたいということで、この辺でこの質問はとどめさせていただきながら、次の質問に入っていきます。

すばらしい景観、普賢岳が——。ちょっとこう——梅雨どきやったもんですから、普賢岳までは見えなかったです。有明海も見えます。手前はここ、九州自然歩道ですよ。「眉山キャンプ場へようこそ」という看板が入り口に出ております。バンガロー。行ったことがあります。山菜の宝庫ですよ、ここは。ワラビ、ゼンマイ。時期によってはですね。3月、4月は。そういう感じで、いよいよ7月10日からキャンプ開きがあります。利用状況が、今どれくらい利用されているのかお尋ねいたします。御答弁を。

**○議長（松原豊喜君）**

古賀教育部長

**○古賀教育部長〔登壇〕**

昨年の状況でございますが、8件利用がありました。個人で5件、団体で3件。トータルで言いますと206名の方が利用していただいているという状況です。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕

206名ということのお話でしたが、もう少し環境の整備が大事と思うんですよ、迎えるにあたっては。キャンプ場に登る前の道路。崩落、岩が。自然も自然として残すところは残しながらせんといかんでしょうが、道の脇がこういう状況ですよ。岩石が露出、むき出し。あるいはこの道も陥没と。また、キャンプ場の上もこういう道がセメントがはがれている状態で、まさにここは九州自然歩道の一部でもあるという状況の中で、ぜひとも登山道の早期整備を7月1日からオープンということで、今からではもう間に合わないかと思えますけども、菅牟田区でも管理委託をしていただいて、常に野焼きとか、と言うような形で受け入れ態勢をしていただいておりますけれども、現実的にはここまでは区としては手がけは難しいものですから、ぜひとも早急に観光の一貫の、また子どもたちの教育の場でもあるものですから、ぜひとも早期整備をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（松原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに危険な箇所ってやっぱりありますね。これ、1回チェックに参りたいと思います。その上で、お越しいただいた方々が、快適性の前に安全・安心じゃないとキャンプにならないですもんね。なのでそれは、一度私と地区の皆さんと一緒に、傍聴の方もうなずいておられますけど、チェックをしたいと思います。やはり、行く前が勝負なんですよ。やはり。どんなにキャンプ場がよくても、行く前に気持ちがこう、落ちることもありますので、行くところ、通過点じゃないですけどアプローチについてはもう少し我々も配慮しないといけない、と思います。この、岩石がむき出し、か——（発言する者あり）小石だそうです。それはともかくとしても、これは見てくれとしてもあまりよくないですので、1回チェックをさせていただければありがたいと、このように思います。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕

まさに安心安全という中で、早期整備をよろしく願いをしておきたいと思います。このような形で、九州自然歩道とも一緒ですね。またリピーターも数多く来ていただいているので、環境づくりをまずもってよろしく願いを申し上げながら、次の質問、みんなのバスの現状と課題について。

これは、牟田議員も質問されましたので、割愛させていただきながら——。各地で利用状況が出ているかと思えます。ただ、山内、北方、武内と比べれば、非常に若木の利用が少な

い状況です。私も実際に乗りながら、また運行日誌を見させていただきながら、今日は2人だったとかお話を聞きました。そういった感じで、前井手老人会長とか緒方婦人会長さん、あるいは子どもクラブといった中で、今後、みんなのバスをどのように運営すれば乗り手が多くなるだろうかと、数回地元で協議もいたしました。そういった形で、循環バスと乗り継ぎをしたら、何とかいいんじゃないかという形でも検討して、若干ふえはしましたけども、なかなか、乗り手が少ないと。若木町の場合は、商業施設がないという状況が1番市民ニーズと今のみんなのバスの mismatch というか、じゃないかと。地域のニーズとしては、武雄、北方に出たいという状況が非常に高いものですから。道路交通法とか、運送法でも、いろいろ法的な制約があるかと思いますが、ぜひその辺は、北方、山内あたりも、民間バス路線で一部走っているところもあるわけですよ。だから民間バスが通っているからみんなのバスが通せないことはないかと思います。私も地域公共交通会議の一メンバーでもあるとですよ。ただ、年に1回しか開かれとらんわけですよ。せつかく協議会があるわけですから、早急にこういう課題、みんなのバスのニーズを地域からこういう課題が出ているということで、すぐ地域公共交通会議に提案申し上げて、すぐ対応していくことが大事かと思いますが、なかなかその辺の対応が若干遅れているんじゃないかという思いでおりますけども、もう一度その辺の対応をしていただきながら地域のみんなのバスを――。要するに福祉バスという位置づけの中で、非常に地域の皆さんは安心感があるとですよ。それがなくなれば、利用者は少ないけれど不安が出るということで、乗り手はないですけども、回っていることによって福祉バスという位置づけの中で安心感が地域の方が、一方では持っていらっしゃいます。そういった中で、もっとよりよいみんなのバスという形になると、もう少しニーズに合った運行を、ぜひとももう1度検討していただきたいということで、お願いさせていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

**○議長（松原豊喜君）**

樋渡市長（発言する者あり）

**○樋渡市長〔登壇〕**

ないところは検討もできないということを前提におきながらね、僕、ちょっと違うと思います。その御認識は。

地域公共交通会議が開かれないのは、我々が1年に1回しか開かないから怠慢だ、という感じにおっしゃいましたが、そうじゃなくて、もしその必要性があれば地域から声をあげてくたされればいいじゃないですか。行政と地域の役割は、僕はそうだと思いますよ。それを何も出てこないとなると、我々はちゃんとやってる、ちゃんと言っているというふうに思わざるを得ないんですよ。ですので僕は非常に憤慨しました、さっきの議員の御意見に対しては。我々、一生懸命やっていますよ。しかも、聞こう聞こうと思っててもなかなか全部網羅して聞けるわけじゃないんですよ。ですのでそれは、いろいろな、こういうふうな議会でもある



だろうし、例えば若木町の場合はまちづくり振興協議会ですか、もあるだろうし、いろんなところがあって、そこで「ぜひ開け」ということをおっしゃってくださればいいだけの話なのに、それは僕は納得できません。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔議員）〔登壇〕

ちょっと認識を、ちょっとあれですけど、私も初めて、去年ですね、会議に出席させていただいて、なかなか、そこで協議で発言できるような機会がなかったものですから、前もっていろんな情報交換をという部分の中で、また地域でいろいろな形の課題を見いだしながら行政と一体となって話をしていきたいという形で思っております。よろしく願いいたします。

それでは次に、図書館に話を移らせていただきます。すばらしい図書館。図書館効果と今後の企業誘致ということで、図書館については、市民の声から誇れる施設ができましたと。また行くのが楽しみ。また、数多くの本に触れられる、身近に感じる。あるいは、ゆっくりくつろげ、心地よい空間の中で本を読むことができると。地域の活性化と経済効果も大いに発揮していただいているかと思えます。そういった中で、図書館とは、図書館法の第1条に国民の教育と文化の発展に寄与することを目的とする、と書いてあります。まさに、私は注目するところは来館者が約5倍になったということよりも——それも大事ないいことですよ。貸出冊数が倍になったということに注目したいと思えます。それだけ、借りる方が多くなった、借りる本を提供することができたということは、本来の今後の図書館のある姿、有り様がですね、この武雄市の図書館ではないかと思っております。きのうも、イノベーション——創造の代表例として全国にも紹介をされておりました。民でできるところは民で。また官でやるべきところは官でということで、しっかりと今後ともトップセールスの中で、こういった形で取り組んでいただければと思います。またこれも、公明新聞で全国に発信しながら、注目を浴びる図書館として有り様を説明していきたいと思えます。

時間もあと3分ということで、申し訳ないんですけども、これは武雄北方インター工業団地の全容。今後の企業誘致には冒頭言いました。人口減少の歯止めということで、現在の武雄の北方インター工業団地の引き合いは——という話をさせていただいて、状況だけ手短にお話が聞ければと思います。

○議長（松原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

現在の武雄北方インター工業団地の引き合いの状況ということでございます。我々現場で感じておりますことは、景気回復の鍵を握る設備投資につきましては、依然として慎重姿勢

がみられるものの、これまでになかった武雄市の今持っています優遇措置に関する細かい問い合わせや、これまでよりも1歩踏み込んだ形での引き合いは出てきているところがございます。市民病院あるいはフェイスブック、図書館のオープンなど、武雄市としての知名度が今アップしているということで、行った先でもそういった感覚がございます。そういうこと含めて、今後1日でも早く、1件でも立地しようということのでがんばっております。

○議長（松原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番松尾陽輔議員〔登壇〕

各地に、全国に飛びまわっていただいて、誘致の推進をしていただいたことについては非常に頭が下がる思いですが、そういった形で企業誘致に関しては、オーダーメイド方式もどうでしょうかということで御提案させていただきたいんですけども、どうしても、企業は初期投資が非常に負担になってくるわけですね。そういった中で武雄市の企業誘致の優遇措置を見てみますと、固定資産税の減税、あるいは雇用奨励金の交付、利子補給の交付、操業支援補助金の交付、用地取得の補助金の交付ということでしていただいておりますが、そこにオーダーメイド、賃貸型工場建設の補助金交付ということで、鳥取市が取り組んで成功していると。20人以上の新規雇用、10年以上の事業継続、原則10年以内に土地・建物を買取っていただくことを条件に、オーダーメイド。会社がこういう面積で建てたいということ、受け入れをしながらオーダーメイド方式で企業誘致をするという状況の中で、こういう形でぜひとも取り組みをしていただきたい。また、社員寮の建設にも行政がまずフックをかけていただいて、民間とのパイプ役となってしていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げながら、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松原豊喜君）

以上で6番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。